



経済構造

2.1	国内総生産と産業構造.....	31
2.2	国際的な融合.....	34
2.3	優れた技術と産業.....	36

2

スイスは、世界で最もリベラルで競争力のある経済を有しています。かつてより、スイスは、外国と密接な経済関係を築いてきました。投資家にとって、スイスは堅牢な法体系と長期的に安定した国家基盤を持つ国であり、総体的に規制が少なく、研究機関にも近いため、欧州で質の高い製品やサービスを提供する事業拠点として選ばれています。

2.1 国内総生産と産業構造

2021年のスイスの国民1人当たりの国内総生産(GDP)は世界第3位でした(図5)。国民一人当たりのGDPは、EU平均を大きく上回っています。GDPの70%以上が、サービス部門によって占められています。GDPの25%以上を占める工業部門も経済の要です。主要産業は、製薬、金融、ICT、機械・電気・金属産業です。スイス経済は輸出志向が強くなり、GDPに占める割合で見ると、対外貿易は世界で最も高い水準にあります。EUはスイスにとって重要な貿易相手であり、2021年度においては輸出の47%、輸入の61%をEUとの取引が占めています。スイス経済では、中小企業が多数を占めています。国内企業の99%以上はフルタイム従業員が250人以下の企業です。これに対して、スイスに拠点を構えている多国籍企業は、スイス全体の国内総生産の約3分の1に当たる付加価値を生み出しています。これらの企業では約150万人が雇用されており、被雇用者3人に1人が多国籍企業に勤務している計算になります。被雇用者は意欲にあふれ、責任感が強く、会社に対する忠誠心も旺盛です。このようなスイスの特質は、産業やサービス業における品質・サービス重視の精神に現れています。

1人当たり国内総生産(名目)

単位：1,000米ドル

(図5)

1	ルクセンブルク	137
2	アイルランド	100
3	スイス	92
4	ノルウェー	89
5	シンガポール	73
7	米国	69
9	デンマーク	68
11	スウェーデン	61
12	オランダ	58
14	オーストリア	53
16	カナダ	52
17	ベルギー	52
18	ドイツ	51
20	香港	50
22	英国	47
23	フランス	45
26	日本	39
27	イタリア	35
28	韓国	35

出典：IMFオンライン、2022年、2021年時点

スイスでは、就労者の約80%がサービス業に従事しています。製造業部門は21%ほどです(図6を参照)。先進工業諸国では、工業部門の重要性が低下する傾向にありますが、スイスでは、第二次産業の就業者の絶対数は過去20年にわたり安定しています。

産業構造および雇用率

(図6)

産業分野	被雇用者(2022年第2四半期)	
	1,000人	%
合計(農林業を除く)	5,316	100%
第2次産業合計	1,107	21.61%
鉱業、採石・採土業	5	0.09%
製造、加工	682	12.83%
エネルギー供給	31	0.58%
水の供給・環境汚染除去	21	0.40%
建設業	368	6.92%
第3次産業合計	4,209	79.18%
自動車販売、整備、修理	624	11.74%
運輸・倉庫	252	4.74%
サービス(観光、宿泊、飲食)	255	4.80%
情報通信	193	3.63%
金融・保険サービス	244	4.59%
不動産	73	1.37%
自営業、研究職、技術職、サービス	486	9.14%
その他サービス業	369	6.94%
行政	216	4.06%
教育	395	7.43%
医療・福祉	807	15.18%
芸術・娯楽・保養	113	2.13%
その他サービス業	181	3.40%

出典：連邦統計局(BFS)、雇用統計(BESTA)、2022年

競争力に関する国際指標では、スイスは長年に渡り上位につけています。スイスは、イノベーション力、優れた教育制度、柔軟な労働市場に対して最高点を獲得しています。

国際競争力ランキング

総合評価1-100

(図7)

1	デンマーク	100.0
2	スイス	98.9
3	シンガポール	98.1
4	スウェーデン	97.7
5	香港	94.9
6	オランダ	94.3
7	台湾、中国	93.1
8	フィンランド	93.0
9	ノルウェー	93.0
10	米国	89.9
11	アイルランド	89.5
13	ルクセンブルク	87.8
15	ドイツ	85.7
17	中国	83.9
23	英国	78.5
27	韓国	75.6
28	フランス	74.3
34	日本	66.6
37	インド	66.0
41	イタリア	65.0

出典：IMD世界競争力センター、2022年

イノベーションに関しても、スイスは世界のトップクラスです。2021年には、世界で最もイノベティブな国として、11年連続でグローバル・イノベーション・インデックスの首位に輝きました。

グローバル・イノベーション・インデックス

総合評価0 - 100

(図8)

1	スイス	65.5
2	スウェーデン	63.1
3	米国	61.3
4	英国	59.8
5	韓国	59.3
6	オランダ	58.6
7	フィンランド	58.4
8	シンガポール	57.8
9	デンマーク	57.3
10	ドイツ	57.3
11	フランス	55.0
12	中国	54.8
13	日本	54.5
16	カナダ	53.1
18	オーストリア	50.9
19	アイルランド	50.7
20	ノルウェー	50.4
25	オーストラリア	48.3
29	イタリア	45.7
46	インド	36.4

出典：INSEAD、グローバル・イノベーション・インデックス、2021年

スイスは、世界トップのイノベーション
大国です。優れたイノベーションの
成果を誇り、イノベーションにとって
理想的な環境を提供しています。
成熟した市場と経済がその証です。

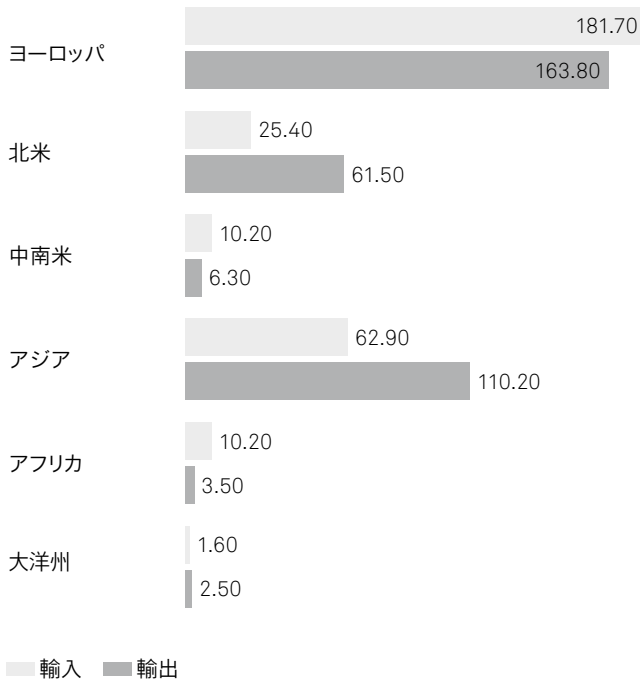
2.2 国際的な融合

スイスは、国内市場の規模が小さく、水を除くと天然資源には恵まれていません。そのため、企業の多くは産業が誕生した当初から、最も重要な販路を外国に求めざるを得ませんでした。国外に開放的になる必要に迫られたこの状況のおかげで、スイスは世界貿易において重要な役割を担うことになったのです。輸出はGDPの約33%を占めています。スイスは、物品とサービスの両方において重要な輸出国として、主導的な役割を果たしてきました。

経済圏別貿易状況

輸入・輸出額(単位：100万スイスフラン、2021年)

(図9)



出典：連邦財務省関税・国境警備局(BAZG)、2022年

2.2.1 物品とサービスの取引

欧州は、スイス経済にとって最大の貿易相手です(2021年)。輸出入の双方において、ドイツは、伝統的にスイスの最重要貿易相手国です。その他の欧州内の重要な貿易相手国は、イタリアとフランスです。主要な輸入先は第2位がイタリア、第3位がフランスです。スイスの国際貿易取引主要国は、米国と中国です。

輸出で成功を収めている産業分野の典型例として、スイスの「隠れた自動車・航空産業」と呼ばれる分野を挙げることができます。高度に専門化された生産システムや処理システムを持つ企業のネットワークは、世界的にはあまり知られていないものの、精密工学、マイクロメカニクス、素材技術や合成樹脂、繊維など様々な分野にコンポーネントを提供しています。テクノロジーを牽引するイノベーションパートナーとして、これらのスイス企業は、高品質・高精度の製品を生み出す信頼できる存在として認められています。

スイスはWTO協定を締結しています。自由貿易協定を結び、EFTAの構成員として、またEU加盟国との二国間協定を通じ、継続して市場の自由化に取り組んできました。一貫した市場の自由化政策のおかげで、市場としての規模は小さいながらも、スイスは効率の良い貿易の中心地となり、経済的に重要な市場へと成長を遂げたのです。

スイスは、外国企業にとって魅力的な立地です。2020年の対内直接投資は、約1,220億スイスフランに上りました。

2.2.2 直接投資

スイスは、グローバル市場への進出が最も進んでいる国のひとつです。2020年の対外直接投資は、1兆4600億スイスフランに上りました。対外直接投資を行っているスイス企業は、国外の子会社や事業部門で約200万人の雇用を生み出していますが、同時にスイス国内でも重要な雇用主となっています。スイスは、対外直接投資に関して世界15位以内に入っています。米国にとっても、スイスは、重要な直接投資元です。2020年には米国に対してスイスの直接投資全体の20.04%、2926億1700万スイスフランが投資されました。

一方、スイスは、国外の投資家にとっても魅力的な投資先です。特にEU圏(全体の72.6%、8兆827億5100万スイスフラン)や米国から大きな投資を受けています。スイスにおける米国企業の資本ストックは、2020年末の時点で、12.7%、1兆539億2700万スイスフランに達しています。

直接投資：資本ストック

(図10)

資本ストック、2020年末	スイスの対外直接投資		外国からスイスへの直接投資	
	100万スイスフラン	%	100万スイスフラン	%
合計	1,460,050	100.0%	1,216,319	100.0%
EU	664,664	45.5%	882,751	72.6%
英国	89,384	6.1%	62,005	5.1%
ドイツ	69,464	4.8%	14,014	1.2%
オランダ	158,899	10.9%	332,439	27.3%
ルクセンブルク	114,710	7.9%	283,070	23.3%
フランス	64,810	4.4%	48,054	4.0%
イタリア	21,439	1.5%	2,805	0.2%
アイルランド	57,900	4.0%	94,537	7.8%
オーストリア	10,881	0.7%	16,122	1.3%
その他欧州諸国	153,826	10.5%	99,078	8.1%
オフショア金融センター	27,199	1.9%	該当なし	該当なし
ロシア連邦	27,792	1.9%	該当なし	該当なし
北米	324,447	22.2%	153,817	12.6%
米国	292,617	20.0%	153,927	12.7%
カナダ	31,830	2.2%	-109	0.0%
中南米	144,196	9.9%	31,230	2.6%
ブラジル	8,098	0.6%	該当なし	該当なし
オフショア金融センター	113,512	7.8%	35,118	2.9%
アジア、アフリカ、オセアニア	172,917	11.8%	49,444	4.1%
日本	21,952	1.5%	3,055	0.3%
シンガポール	32,522	2.2%	該当なし	該当なし
中国	25,191	1.7%	該当なし	該当なし
香港	15,528	1.1%	該当なし	該当なし
韓国	19,938	1.4%	該当なし	該当なし
インド	5,854	0.4%	該当なし	該当なし
オーストラリア	10,148	0.7%	該当なし	該当なし

出典：スイス国立銀行(SNB)、2022年

2.3 優れた技術と産業

クラスターとは、バリューチェーンに沿って一定の地域内で近接しており共通の活動分野を持つことで形成される産業の集まりをいいます。このような条件のもとで成長の基盤が築き、サプライヤーや専門のサービスプロバイダーを誘致し、関係するすべての企業の市場競争優位性を構築します。一方、エコシステムは、緩やかに結集した多様な経済主体のダイナミックな構造になっています。この構造を特徴とするエコシステムがネットワークを形成し、共通の技術、言語、制度を介して交流しています。

スイスには、このような産業クラスターや技術的なエコシステムが複数存在しており、国際的にも重要な位置を占めています。以下では、5つの代表的な技術的なエコシステムと、最も重要なスイスの業界別クラスターを、簡潔に紹介しています。クラスターは、部分的に重複しているので、掲載した数字はあくまで参考としてご覧ください。

2.3.1 人工知能(AI)

スイス国内には、人工知能(AI)分野で世界的に有名な大学や研究所が軒を連ねています。最先端の研究が行われているため、Google、IBM、そしてマイクロソフトなどのテクノロジー大手企業界が所構えています。ライフサイエンスの分野で長い実績を誇るスイスは、ヘルスケア分野でもAI開発を推進しています。スイスは人口比に鑑みると、AI特許の取得件数が世界トップクラスであり、イノベーションにおける可能性の高さがうかがえます。企業は、効率的な技術移転、持続可能なソフトウェアシステム、手続きが簡単な州・政府からの支援申請など多くの恩恵を受けることができます。スターマインドやソフィア ジェネティクス、リキャップなどのスタートアップ企業は、ティチーノ州のダレ・モレ人工知能研究所(IDSIA)や、ヴァレー州のイディアップ研究所、シャフハウゼン工科大学(SIT)などのAIを専門とする大学や研究機関と連携しています。また、ノバルティスやマイクロソフトなどのグローバル企業は、デジタル技術を活用しAIにより個別化された治療法の開発を目的とした共同AIラボを設立しました。

www.s-ge.com/artificial-intelligence
スイスの概要—人工知能(AI)

2.3.2 ロボット技術

卓越した工学系大学を擁し、ダイナミックなタレントプールやエコシステムが確立していることにより、スイスは「ロボット工学のシリコンバレー」という呼び名を得ています。この名声の源流には、機械工学、精密工学や時計製造といった分野での長い伝統と専門性があります。これらは、Googleやメタ(旧フェイスブック)、HPといったグローバルな技術企業をも引きつけているロボット工学というまだ相対的に若い学術分野での一線級の研究の基盤を構築しています。ここでは、専門性が高く才能あふれる人材を発掘することができます。スイスの規制当局がイノベーションになじみやすく実際の対応をとっているため、ドローン運行管理システム(UTM)分野での法的基盤はすでに確立されています。スイスは世界で初めて国全体でUスペースコンセプトを導入しました。このコンセプトは2017年にジュネーブで実際に試験実施されています。さらに、スイスはSORA(特定運航リスクアセスメント)を生んだ土地でもあります。SORAは拘束力を持たないドローンのリスク評価ガイドラインであり、現在世界標準となりつつあります。産業界と規制当局との類まれな共同作業により、スイスでは企業に対して理想的な枠組みを提供しています。そのおかげで企業は革新的な製品開発や実際の条件下でのテストや使用をスムーズに行うことができます。

www.s-ge.com/invest-robotics
スイスの概要—ロボット技術

2.3.3 アドバンスド・マニュファクチャリング

時計産業、MEM(機械、電気、鉄鋼業)産業、およびメドテック(先端医療技術)の長い伝統のおかげで、スイスには高度に産業化された精密機械製造クラスターが形成されています。これにより、デジタル化が進む現代の最先端製造プロセスの分野で、スイスは世界のトップランクに入る存在です。製造拠点としてスイスを選ぶことにより、各企業の製造プロセスの最適化を実現することができます。最適化は、製造作業の効率性の向上、そしてコスト削減によって可能になります。ABB、エリコン、ハミルトン、シンドラーといった国際的な企業やリシュモンなどの時計業界におけるグループ企業がデジタルソリューションを活用しながら、スイス国内で製造プロセスの最適化を行っています。これらの企業は、スイスのデュアルシステムによる教育を受けた、専門性の高い機械製造に適応できる人材を雇用することができます。製造原価の安い国に対抗するため、大半の企業は技術革新と品質的的を絞り、世界市場における地位の維持と拡大に努めています。

www.s-ge.com/invest-advanced-manufacturing
スイスの概要—アドバンスドマニュファクチャリング(インダストリー 4.0)

2.3.4 情報通信技術

ライフサイエンスとICTの分野で長年の実績を誇るスイスは、個別化医療の分野で、素早くシンプルな方法によって市場に新しいインパクトを与えたい革新的な企業にとって、理想的な環境が整っています。科学・産業分野との密な連携が大きな役割を果たしています。ワルドクラスの大学や国家研究機関では、スイスの製薬会社による最先端の研究が行われています。中小企業やスタートアップ企業は、その恩恵を大いに得ることができます。スイスとしての革新的な力とライフサイエンス分野のクラスターにより、スイスは製薬開発から製造までのバリューチェーン全体をカバーしています。

www.s-ge.com/invest-personalized-health
スイスの概要—個別化された健康医療制度

2.3.5 ブロックチェーン

スイスの分散型・草の根民主主義的政治体制は、暗号技術にとって理想的な環境を生み出しています。2018年、スイス金融市場監督局(FINMA)は、規制当局として世界で初めて新規暗号資産公開(ICO)に関する明確なガイドラインとトークンの分類を発表しました。このようなスイス当局の合理主義的なアプローチにより、スイスはブロックチェーン企業にとって極めて有利な条件を提供しています。そしてそのおかげで、世界初となる取り組みを数多く行う活発なエコシステムが誕生しました。例えば、2016年には、ツークが世界で初めて納税目的でのビットコインの使用を認めた都市となりました。2018年には、フィンテック企業である「21Shares(旧: Amun)」が、上場取引型金融商品(ETP)をスイス証券取引所に上場しました。2019年においては、FINMAがスイスに拠点を置く企業「SEBA」と「Sygnum」に対し銀行免許を発行し、世界初の仮想通貨銀行が誕生しました。さらに2021年には、分散型台帳技術(DLT)に関する新しい法律が施行されました。スイスは、こうした世界最先端の法律体制を整えており、金融業界をはるかに超えた革新的なプロジェクトや斬新なビジネスモデルを実現させるための土台を築いています。

www.s-ge.com/invest-blockchain
スイスの概要—ブロックチェーン産業の拠点

2.3.6 ライフサイエンス

ノバルティス、ロシュ、シンジェンタなど大きな成功を収めている世界的な大手企業、そして中小企業が他国には例を見ない産業クラスターを形成しており、バーゼルやチューリッヒ、ツークやその周辺地域は、こうした国内外の製薬・化学企業の拠点となっています。スイスの化学・製薬産業は、事実上、特殊化学品に特化し、国際市場を対象として活動しています。スイスに拠点を置く化学・製薬会社は、多くの市場で世界トップシェアを誇っています。スイスの商品輸出全体の33%を占める化学・製薬製品は、スイスの最も重要な輸出財になっています。

ノバルティス、ロシュというメガ・ファーマ(巨大製薬企業)や近年スイスに進出したインディゴ、アルニラム、ブルーバード・バイオ、ペイジーン、インサイトなどの国際企業による投資のおかげで、バイオテクノロジーのクラスターが形成されました。スイスは、欧州最大規模、最も革新的なバイオテクノロジーの拠点となっています。そのため、当該企業はヨーロッパ本社をスイスに移しました。スイスのバイオテクノロジー企業の半数以上は、従業員数20人未満の小規模企業です。これらの企業にとっては、スイス国内や近隣諸国の大手企業への地理的な近さが、メリットとなっています。スイスには、ライフサイエンス分野のバリューチェーン全体に沿って、成功を手に入れている革新的な企業、研究機関、大学が多く存在しています。スイスに本社を置く著名なグローバルプレイヤーには、アクテリオン、アムジェン、バイオジェン、クルーセル、メルクセローノプリストル・マイヤーズ スクイブ、MSD メルク・シャープ & ドローンなどがあります。欧州諸国と比べた大手企業の密集状況は、明白です。

また、1400社もの医療技術企業が、スイスに集中しています。スイスで生産される製品の75%が輸出されています。これは2021年度におけるスイスの輸出全体の3.4%に相当します。研究開発投資、成長率、利益率は、平均を大きく上回っています。約67,500人もの人材が医療技術分野に従事しています。これは労働人口の1.3%にあたり、他国よりも高い水準にあります。世界で事業展開しているスイス企業としては、このほかにイブソメド、ソノバ、ストローマンなどが挙げられます。ジンマーバイオメット、メドトロニック、ビーブラウン、ジェイビルなどの大手外資系企業も存在感を示しています。

www.s-ge.com/invest-lifesciences
スイスの概要—ライフサイエンスの拠点

www.s-ge.com/invest-pharma
スイスの概要—製薬産業の拠点

www.s-ge.com/biotech
スイスの概要—バイオテクノロジーの拠点

www.s-ge.com/medtech
スイスの概要—医療技術の拠点

www.scienceindustries.ch
スイス化学・製薬・バイオテクノロジー産業会

www.swiss-medtech.ch
スイス医療技術連盟

www.interpharma.ch
スイス製薬会社組織

2.3.7 機械工学

機械・電気・金属産業(MEM)は、スイス最大の産業部門であり、320,000人が従事するスイス経済の柱です。2021年、同産業が創出した付加価値は全体の約7%でした。機械、電気、金属産業(MEM)では、研究開発分野だけで全体の約20%を占めています。スイスの機械・電気・金属産業部門には、サブセクターで世界のトップを走る企業が、数え切れないほどあります。この産業部門の製品の約80%は、輸出に当てられています。OCエリコン、リーター、シンドラー、ABBなど世界的に事業を展開している有名な大手金属・機械メーカーが、スイスに拠点を置いています。

スイスの時計産業は、主にジュネーブからシャフハウゼンに至るジュラ地方(「時計メーカー地帯」と呼ばれています)に広がっています。スウォッチグループ、IWCシャフハウゼン、ロレックスSA、リシュモン、LVMHグループなどの企業が、この地方に本社拠点を構えています。スイスの時計産業では、高度に機械化された製品を製造するための分業化が、顕著に進んでいます。このため中小企業が多数を占めています。2021年の時点で、約700社で57,500人が雇用されています。企業と就労者の95%はジュラ地方の9つの州に集中しており、時計産業クラスターが形成されています。スイスの時計メーカーは、特に高級時計の分野において、世界市場のなかでも傑出した位置にあります。スイスで生産される時計の95%は輸出され、2021年の輸出額は223億スイスフランでした。

ジュラ地方には、専門的ノウハウと高い技能を持つ熟練労働者が集まっているため、時計産業に類似した技術が必要とする異業種企業が、続々と進出しています。何年にもわたって開発が進められてきた、この「精密機器クラスター」には医療技術が数えられ、特にここ数年でこの地域での存在感を著しく高めています。現在、この精密機器クラスターには、主にロボット技術や付加製造の製造技術が含まれています。マイクロメカニクスと光学、フォトニクスを中心とするクラスターも、スイス東部やベルン地方、ヌーシャテル地方に誕生しています。

www.s-ge.com/invest-mem

スイスの概要—機械・電気・金属産業の拠点

2.3.8 情報通信技術(ICT)

スイスは、情報社会に必要なインフラ設備の開発・構築において高い評価を得ています。OECDの調査によると、固定ブロードバンドの人口普及率は50%以上であり、デンマークやフランスを抜いて世界トップに立っています。2017年の時点で、スイスの93%の世帯がインターネットを利用していました。世界経済フォーラムの「ネットワーク整備指数(2021年版)」によると、スイスは第6位の座についています。情報通信技術(ICT)分野には240,000人が従事しています。

ICT業界においては、アバカス、オパック、エルカ、ネットセテラなど専門性の高い中小企業が例に挙げられます。IBM、グーグル、メタ(旧Facebook)などの有名企業も、スイス連邦工科大学チューリヒ校やローザンヌ校、その研究所などを取り囲むように拠点を置いています。ジューメンズ、デル、HPなどの外国企業は、IT業界でも多くの従業員を抱えています。非常に高い教育を受け、専門的スキルを持つ数千人に及ぶ労働力は、外資系IT企業がスイスに拠点を設ける重要な理由のひとつです。

www.s-ge.com/invest-ict

スイスの概要—ICT拠点

www.s-ge.com/invest-cybersecurity

スイスのサイバーセキュリティ分野における数字とファクト

2.3.9 金融

金融センターとしてのスイスは、経済の要であるとともに世界屈指のクラスターを構成しています。スイスにはおよそ240の銀行のほか、200の保険会社、1,400の年金基金、さらに380のフィンテック企業があります。金融機関の大多数はチューリヒ、ジュネーブ、バーゼル、ルガーノに拠点を置いています。2020年には、銀行と保険会社の直接付加価値が総額で約665億スイスフランに達しました。このうち379億スイスフランを銀行が、286億スイスフランを保険会社が占めています。両者を足し合わせた額はスイス全体のGDPの9.7%に相当します。およそ224,400人が金融部門に従事しています(フルタイム)。これはスイスの全就労人口の5.3%に上ります。このうち約148,100人が銀行に、約76,400人が保険会社に勤務しています。金融業の重要性は大学の課程にも反映されています。金融機関とスイスの主要大学が共同で取り組んでいる「スイス金融研究所」では、金融に関する教育と研究を促進しています。

国際比較のうえで、スイスは金融センターとして高く評価されており、極めて高い競争力を誇っています。スイスの銀行はイノベーション、専門性、高い質をその特徴としています。強みを発揮する分野として、資産運用サービスがあります。世界中の国境を越えた資産運用の4分の1を実施するスイスは、国境を越えたプライベートバンキングの分野でも世界的リーダーなのです。グローバルに事業展開しているUBSとクレディスイスの大手2行に加え、地方銀行や専門サービスを提供する金融機関も多数存在しています。こういった多様性は金融センターとしてのスイスの大きな強みです。これによって、どの顧客も個別のニーズに合ったスイスの銀行を適切に選ぶことができます。

保険業界の成功要因や枠組み条件としては、国民所得の高さ、保障に対するニーズの高さ、安定した老齢年金制度、国際的なネットワークを誇るオープンな保険センター、信頼の置ける規制環境、再保険ビジネスの国際的なノウハウなどを挙げることができます。

金融機関に関する詳しい情報については、88ページ以下を参照ください。

www.s-ge.com/financial-center
スイスの概要—金融センター

2.3.10 スイス本社

スイスには、外国企業のグローバル本社と地域本社が集中していません。欧州企業がスイスにグローバル本社を設置しているのに対し、北米企業はスイスに地域本社を置く傾向があります。現在、850社以上もの国際企業がスイスに本社や中枢機関を置いています。スイスに本社を移した有名企業は、企業の本拠地としてスイスが魅力的であることを示しています。

スイスに本社を置くと、企業は様々な恩恵を受けることができます。まず、高い教育水準と優れた労働条件により、非常に優秀な人材を確保することができることです。そして、スイスは政治的な安定性と法的な安全保障という点でも優れており、研究機関とも近いことからテスト市場として優秀です。さらに、多くの企業が、重要な意思決定者が存在する本社をスイスに構えています。また、スイスは、ヨーロッパの中心に位置し、ヨーロッパ市場へ直接アクセスすることができます。優れたインフラ、信頼性の高い租税条約協定による魅力的な税制が保証されており、戦略的なロケーションを提供しています。

www.s-ge.com/headquarters

**850を超す外国企業が
スイスに本社を設置しています。**